

ヒラマサ人工種苗の安定供給にむけた取り組み 種苗生産技術開発（H27年度）

水産研究部

1. 研究の背景

大分県ではブリ類養殖業の経営安定化を図るため、ヒラマサの複合養殖を推進している。ヒラマサの養殖種苗はほとんどが天然に依存しており、種苗の価格や供給量が不安定で計画的な養殖生産が難しい。



ヒラマサ

2. 研究成果の内容・普及のポイント

そこで水産研究部では、H25年度から安価で安定的に種苗を供給できる技術の開発に取り組んだ。

- 大量の受精卵の入手技術を開発（写真1）
親魚養成技術と採卵技術を開発
H25年度採卵数143万粒→H27年度676万粒
- 種苗量産技術を開発（50トン水槽1基を用いて）
H25年度1回目選別時（平均全長3.1cm） 22,765尾
H27年度1回目選別時（平均全長2.5cm） 41,806尾（1ラウンド）
（平均全長1.7cm） 71,094尾（2ラウンド）
- 早期採卵技術を開発（写真2）
陸上水槽でヒラマサ親魚を養成し、日長処理、加温による成熟促進を行い、通常期より1ヶ月半早い時期に採卵。



写真1 成熟のモニタリング



写真2 陸上水槽での親魚養成

3. 期待される効果

- ・漁業公社へ技術移転済み！種苗量産化により供給が安定！
- ・種苗の供給が安定することで計画的な養殖生産が可能！
- ・安価な人工種苗により経営が安定化！
- ・早期種苗の利用により早期に出荷サイズに達するため、市場のニーズに応じた出荷が可能。→生産者の収益性が向上！



ヒラマサ人工種苗

4. 担当機関連絡先

水産研究部 栽培資源チーム
TEL：0972-32-2155
住所：佐伯市上浦大字津井浦194-6